

## 第1章 生物多様性さっぽろビジョン改定の背景

- 1 生物多様性に関する最近の動向
  - (1) 生物多様性の喪失
  - (2) 愛知目標と生物多様性に関する世界の状況
  - (3) 国の動き
  - (4) 札幌市の動き

- 2 これまでのビジョンに基づく取組の進捗状況
  - (1) 指標の確認方法
  - (2) 指標に係る目標値の達成状況

- 3 ビジョン改定の目的
  - (1) 目標年次2020年度として見直しについて言及
  - (2) 国家戦略の改定
  - (3) ビジョン運用により認識した課題の解決

## 第2章 現状への課題

### 生物多様性に関する現状に関する課題（例）

保全事業の充実、外来種の侵入、野生動物とのあつれきの増加、気候変動対応、人口減少による担い手不足の懸念、再生可能エネルギーと生物多様性保全の調整など

## 第3章 ビジョンの位置づけ

- 1 生物多様性基本法第13条に基づく札幌市の生物多様性地域戦略であること
- 2 国家戦略、道計画との位置づけ、札幌市の関連計画との位置づけ（関係図）※他部局との事業との関わりなどを記載

### ※基本構成、伝え方

全体構成の整理、ポスターなどの絵で表現、ビジョンの説明やイメージ、具体的にやるべきことの記載、丁寧な説明、身近なトピックからかみ砕いて伝える、危機感を出しすぎず、札幌の自然が好きという感覚を大事にできる伝え方、なぜこのような政策なのかを明確に。

## 第4章 理念

※ポジティブなメッセージ、「生物多様性さっぽろビジョン」を表す言葉

## 第5章 目標年次及び対象区域

2050年まで（見直しは2030年） 札幌市全域、市域だけで解決できない取組は周辺自治体との連携を図る

## 第6章 札幌市の自然環境

人口の概要、市域面積、高度、代表的な生態系（指標種）、札幌市の地理的特徴等 ※札幌の四季の魅力

## 第7章 ゾーニング

山地ゾーン、山麓ゾーン、市街地ゾーン、低地ゾーン、各ゾーンをつなぐ生態系  
※市街地ゾーンを業務系と住居系などに分けても良いのでは？

## 第8章 目標（あるべき姿）及び進捗管理

ゾーンごと（主体、生態系サービスごと）のあるべき姿を記載  
※具体的に何を保全し、どのような方法で生物多様性保全を図るのかという目標を提示

- 1 指標とモニタリング方法
- 2 2030年までの目標値
- 3 2050年最終目標（可能なら数値目標）

### ※全体に取り入れる考え方、視点

温暖化、気候変動による生態系の変化への対応、人為的な管理による保全、SDGs、循環型社会、持続可能性、防災、心理的・身体的に影響する身近な自然環境の回復・維持、四季の魅力、生態系サービスの社会・文化的側面の評価視点、Eco-DRR、生物との共生の考え方、身近な行為についての生物多様性への配慮等

## 第9章 施策を進めるにあたっての基本方針

- 1 将来も持続可能な利用ができるよう、札幌市内の生物多様性を保全する
- 2 生物多様性への理解を深め、将来に伝える
- 3 様々な立場と連携協働して生物多様性の保全を進める
- 4 札幌市は消費都市であり、人間活動の影響の大きさを踏まえ、地球規模で生物多様性に配慮した取組を行う…など

## 第10章 指標に基づいた目標を達成するための施策

- 1 保全事業
  - (1) レッドリストの定期的な見直しと掲載種の保全事業の検討、実施
  - (2) 外来種対策
  - (3) 野生鳥獣とのあつれき対策
  - (4) 防災、減災につながる自然機能の活用

- 2 普及啓発事業
  - (1) イベント
  - (2) 学校教育との連携事業、環境教育
  - (3) 各種普及啓発ツールの作成、活用

- 3 調査事業
  - (1) 市民参加型指標種調査
  - (2) 自然環境調査
  - (3) 協働型生き物調査
  - (4) 動植物データベースの活用

- 4 企業や施設との連携事業
  - (1) 生物多様性さっぽろ応援企業、団体登録
  - (2) 生物多様性さっぽろ活動拠点ネットワークとの連携事業

## 第11章 ビジョン推進の体制と役割分担

札幌市、市民、事業者（企業団体等）それぞれが何をするのか

